

第 11 回真田地域協議会 会議録

日 時	平成20年3月26日(水) 午後7時から午後8時30分まで
会 場	真田地域自治センター3階 301会議室
出席委員	一本鎗武志委員、上原和彦委員、内田雅久委員、大久保秀則委員 桑田まなみ委員、小金敏展委員、小林友美委員、坂口恒子委員 佐藤和雄委員、清水潤委員、花岡静枝委員、堀内美子委員 三井勇二委員、宮下蘭子委員、村本貴代春委員、山崎隆喜委員 山崎寿雄委員
欠席委員	飯島功委員、佐藤公至委員、武捨純子委員
市側出席者	小市センター長、センター全課長 渡辺センター次長兼地域振興課長、塚田地域政策係長、宮島主査

- 1 開会(佐藤副会長)
- 2 会長あいさつ(清水会長)
- 3 真田地域自治センター長あいさつ(小市センター長)

4 会議事項

(1) 真田地域図書館施設整備について

(会長)

会議事項に入ります。3月12日の公聴会について、真田教育事務所長から説明をお願いします。

(荒井真田教育事務所長)

3月12日、「真田地域における図書館整備に係る経過説明と意見公聴」を開催しましたので、その内容についてご報告をいたします。

この公聴会には、出席を依頼した15団体中、13団体から22名の出席がありました。出席団体は、長・傍陽・本原地区の自治会連合会、長寿会、身障者福祉協会、各小中学校のPTA、各保育所保護者会で、各団体の正副会長に出席いただきました。さらに、旧真田町時代の元図書館整備研究委員会の代表3名にも出席いただきました。

図書館整備についての経過を全く知らない方も出席されていることから、旧真田町当時から経過説明をしました。また、上田市図書館基本構想答申書についても、その概略を説明しました。

地域協議会から市に提出した意見書、それに対する市からの回答書についても説明し、市からの提案した、地域自治センターの1階を利用した整備計画(案)についても説明しました。

出席者からは、地域自治センター1階を利用した図書館整備については、全体的に望ましくないという意見が多かったように思います。

主な意見を紹介します。

- ・2・3階に行政機能が移った場合、エスカレーターをつければよいという考え方は、若い人たちの考えである。実際にお年寄りのエスカレーターの事故も起きていることから慎重に検討してほしい。高齢化社会において、お年寄りに優しい行政であってほしい。

- ・地域自治センターは、地域住民のよりどころとなる場所として、地域自治センターが使い難くなることでは困る。地域自治センターの利便性を第一に考えてほしい
 - ・地域自治センターの活用方法は他にもたくさんあるのではないかと。もっとみんなで検討する必要があるのではないかと。
 - ・運動公園周辺では人が集まらないとするのであれば、地域自治センター周辺（シルバー人材センターの場所など）を利用できないのか。
 - ・住民参加型の図書館づくりを進めてほしい。
- 以上が主な意見でありました。

地域自治センター1階を利用した図書館整備（案）の平面図については、あくまでも案であるという説明をしましたが、市は「地域自治センターの活用ありきで進めているのではないかと」というご意見もありました。

開催の通知から会議までの期間が短かったため、団体の会員からの意見を吸い上げる時間が無く、今日は、団体としての意見が言えないという意見もありました。そのため、4月下旬に再度この公聴会を開催することとしまして、それまでに各種団体のご意見をまとめていただくようお願いしました。

（会長）

4月下旬にもう一度、公聴会を開催するという事です。地域協議会としては、この各種団体の意見を踏まえて、方向付けをしなければならぬと考えます。したがって、今日この場で、協議会としての方向付けを決定することは難しいと思います。

今までの協議会で議論されたことを踏まえ、その他に付け加えたいことなどのご意見を今日いただいて、次期の協議会に引き継いでいきたいと考えます。

前回までの議論の中で、付け加えや、強調すべき点などがあればご意見を頂戴したいと思っております。

今までに議論した内容については、議事録によって次の協議会に引き継ぐこととなります。

特にご意見がなければ、こんな形でまとめたいと思っております。

1点目は、真田地域における図書館整備については、合併前からの懸案事項で、長年にわたり協議をされてきていますし、合併の際の協定の中にもふれられています。合併によって一時的に計画が止まっていたのですが、合併した現在、早期に施設整備が実現されるようお願いしていくこと。前回の意見書を再度強調するという事になります。

2点目の図書館の整備場所の選定については、運動公園周辺を候補地としたわけですが、副市長からは、もう少し人の集まる場所としたらどうかという意見がありました。整備場所については協議会でもいろいろな意見がありますので、今後、真田地域住民の意向を十分に把握して、その意向を尊重して進めていただくよう要望すること。

3点目は、施設の整備にあたっては、真田地域としての特色を反映させたものであるということと、維持管理や運営面にも十分考慮いただいて多くの住民に利用されるような施設を整備してほしいということ。

以上3点を次期の協議会にお願いするという事でよろしいでしょうか。

（委員）

正式な形でなく申し訳ないのですが、個人的に石黒副市長とお話する機会があった。その際に図書館整備についてお聞きしてみた。副市長は、地域自治センターの庁舎1階を利用することに地域の方々が反対されることについては理解できるとのことだった。消防署の前あたりであればどうかということについては十分に検討の余地があるので

はないかと言っていた。合併から旧丸子、旧武石、旧上田市では、どんどん整備されている事業があるが、真田地域には無い。そのようなことを考慮して、進めていきたいと言っていた。

協議会ではこれまで、図書館整備について長い期間にわたり検討してきたが、図書館整備に反対する委員はいない。副市長とのお話を踏まえ、協議会としての議論を深めていってはどうか。

(会長)

副市長のお話や4月下旬の公聴会での各種団体のご意見をお聞きし、協議会としての議論を深めていきたいと思えます。

(委員)

結論はまだ先送りとのことだが、最終的にはいつになるのか。

(センター長)

特に締め切りがある話ではありません。どこの場所になるにしても、その案が住民のみなさんから理解を得られるように十分協議したうえで、最終的なご判断をいただきたいと思えます。その後、意見書として市に提出していただきます。

時期的なことについては、4月中の公聴会を踏まえて結論をだすということになると、5月以降の地域協議会で最終的なご判断いただくようになるかと思えます。直近の6月議会にはちょっと間に合いませんので、予算がなくてもできる準備をしながら、9月議会には設計等の予算計上ができれば、地域にとっても良いのではないかと感じており、そんな目安でいいのではないかと思えます。

(委員)

5月だと忙しいのではないかと。早く進めなければ間に合わないのでは。

(会長)

地域自治センター1階への整備案では、平成22年4月にオープンとの意向がありました。基本的には、図書館の建築予算が平成21年度の予算編成に間に合えば、それが最短ということでしょうか。順調にいけば、平成22年4月オープンは、それほどくるわないのではないのでしょうか。順調にいった場合の話であります。

その他に何かありますでしょうか。

地域協議会の中で、十分に議論を行ってきておりますので、今までの協議会の意見は、次期の協議会に伝わると思えます。

(2) 地域協議会に参画して(意見・感想)

(会長)

委員の皆さんには、2年間の任期の中で、それぞれのお立場で協議会に参加していただきました。何でも結構ですので、今日のご意見をいただければと思えます。

(委員)

地域内の小中学校PTAの代表として参加したが、議題の内容が難しかった。PTA活動と少し違う議題については、意見があまり言えなかった。自分の団体から、多くの意見を吸い上げて協議会で発言できれば、さらに活発な議論が行えたと思う。個人的な意見しか発言できない状態であったが、来年度からは任期2年を継続できるような委員選出の調整が各団体で行われたと聞いているのでとても良かったと思う。

この協議会の意義について考えさせられた。図書館整備については、市が最初から地域自治センター1階の整備案を示せば、もっと協議が早く進んだのではないかと。時間的なロスではなかったか。

(委員)

団体からの代表として、図書館整備等の重要案件については、団体の役員会などで協議しながら協議会で意見を述べてきた。

分権型合併として「地域のことは地域で決める」という考え方に基づいて、総合計画の地域まちづくり方針や都市計画マスタープランの策定に意見してきたので、これが実際の地域施策として具体的に生かされることを期待する。

真田地域には観光資源として、歴史・史跡などが多くある。これを活かすために、協議会で視察等も計画したらどうか。

地域協議会の存在感についてだが、図書館整備のことも含め、行政の参考機関に過ぎないのかと疑問に思ってきた。協議会として市に意見したものが着実に実行されていくのかをしっかりと見守っていきたい。

(委員)

公募の委員として、仲間などに意見を聞きながら発言してきた。協議会に参加しての感想は、議題を事前にいただいても理解できないことが多く、内容を調べるだけでめいっばいで、ジレンマを感じることもあった。

この協議会を重要視している地域住民の皆さんのためにも、協議会がもっとすばらしい組織となってほしい。

(委員)

自治会連合会の代表として参加した。もっと地域住民の声を聞いたうえで発言できれば良かったが、自治連としてはそのような場をつくれなかった。自治連としてのこれからの課題である。

わがまち魅力アップ応援事業については、協議会でその内容の審議が行われるということなので、今後、さらに協議会の存在意義が高まってくるのではないかと。

(委員)

図書館整備の案件については、2期の委員に引き継ぐことになってしまった。図書館整備の議論が行われた当初、旧真田町からの図書館整備についての経緯があったことなどは、私も含めて、相談した若い年代のものにも知らないものがいた。勉強不足だった。

いろいろな説明を聞いた上で、今までの経緯を大切にしながら図書館整備を実現してほしい。

また、協議会で策定にあたった総合計画の地域まちづくり方針については、これから具体的な事業が行なわれるので、この先も注目していきたい。

(委員)

どれだけ多くの意見を集約できるかを大事に委員として気をつけてきたつもり。

菅平地区は、図書館にしても整備場所が離れているので、この協議会の議論について、距離感というか、あきらめ感を感じたところも正直あった。

民と官の両方の視点に立って、考えようとしてきたが、民と官の違いを改めて痛切に感じた。官も私たち民間経営のような感覚で物事にあたっていくべきである。日帰り温泉施設の値上げなどが、いとも簡単に実施されてしまっていると感じた。

協議会に係わることは、権利として考え委員を務めてきたつもりだ。他の方のご意見を聞くと、切実感を持って声を届けたいというような思いがあまり無かったように思える。それは、住民の声を拾い上げ方が問題で、今後の検討課題だと思う。

(委員)

まず、1期生として協議会の委員に選んでいただいたことに感謝している。

地域協議会という組織は、今までに無かったもので、ゼロからのスタートである。いろいろな紆余曲折があって当然かと思っている。これからは、1期の反省をバネにして、さらに充実した協議会になってほしいと心から願っている。ありがとうございました。

(委員)

3 保育園の保護者会代表として、1年間の参加であったが、個人的には非常に勉強になった。

特に図書館問題には関心も持って会に臨んだが、3 保育園からの話を聞く機会がなく、保育園の保護者会としてのまとまった意見を協議会に持ち込めなかったことが残念だった。協議会で、何ヶ月も協議して図書館整備の方向性を決めたのに、覆されてしまったことはショックだった。

(委員)

協議会の委員として、その重要性を感じ続けてきた。

図書館整備については、「話が進んでいるの?」とか、「本当にできるの?」といった意見を聞くようになった。地域の皆さんに喜んでいただける図書館を早く整備してほしい。

(委員)

分権型合併に伴う協議会の役割や、合併時の約束事項を知っている立場で参加したことから、この協議会の責任や重要性を強く感じ続けていたので、非常にしんどかった。

真田地域が発展するということが、上田市全体も発展することであるという考え方も大切だと思う。

図書館整備については、合併時の大切な約束事項である。新上田市の中で早く実現しなければと思っていたので、この協議会で意見を言えたことに感謝している。家にいれば、図書館問題はどうなっているのかと心配で仕様が無かったと思う。図書館が早期に建設されることを望んでいる。

(委員)

協議会に参加させていただいたことに感謝している。

合併前、地域で実施されていた健康診断については、合併後に合理化され、保健センターに集約された。車を運転できる方には問題がないかもしれないが、交通手段のない方にとっては大変なこと。長野県が長寿県になっているのは、昔から旧母子補導員や旧保健補導員たちの健康診断などに対する積極的な取り組みの成果によるものだと私は感じている。現在の保健行政はちょっと違う方向に向かっているのではないか。

「エスカレーターというのは若い人の考えだ」というご意見が図書館整備の公聴会であったと聞いたとき、私たちは日頃、お年寄りの身になって考えることが案外とできていないのではないかと感じた。投票所の統合についても同じだ。お年寄りに優しい真田地域であってほしいと願っている。

(委員)

地域の意見を吸い上げて協議会に望もうと、意欲を燃やして参加したが、内容が難しくあまり発言できなかった。勉強不足もあるので反省している。

図書館整備については、地域自治センターとの併設は大反対です。人が集まる場所として、乳幼児からお年寄り、障害のある方など、誰もが親しめる場所が別に整備されることを期待する。すばらしい図書館が整備されることを願っている。

(委員)

この協議会は、真田地域の意見を市に反映していくことが一番の務め。真田地域の中にもいろいろな地域や自治会があるので、そこから出される意見をこの協議会で煮詰め、市に強く意見することのできる強い組織となってほしい。

(委員)

図書館整備については、多く時間を使ってきたにも係わらず、意見が覆った部分があった。今後、協議会の位置づけについて課題になっていくだろう。

(委員)

図書館問題については、改めてこの協議会は議決機関ではないということを思い知ら

された。

また、日帰り温泉施設改定については、行政の一方的な報告だけで、協議会で議論していない。投票区の見直しについても同様に、さらっとした行政からの説明で終わっている。これは何が原因かと考えると、協議会1回の会議での議題が多すぎるのではないかと。より、実りのある協議会にするためにも一方的な行政の説明で終わってはならない。

(会長)

委員それぞれの貴重なご意見をありがとうございました。これで私たちの任期は終わりますが、今日のご意見を今後の協議会運営に活かしていただければと思います。

(3)その他

(会長)

事務局から何かありますか。

(事務局)

特にありません。

5 その他

(会長)

一言ごあいさつ申し上げます。

第1期の委員として、皆さん大変お疲れ様でした。地域自治センターの幹部の皆さんには、毎回、課長以上の出席をいただきましてありがとうございました。また、真田地域出身の市議会議員の皆さんにも毎回傍聴いただきありがとうございました。

地域協議会は、4市町村の合併に伴いまして発足しました。いわば、3町村(旧丸子町・旧真田町・旧武石村)のために設けられた意味合いがあるわけで、その活動については大変注目されてきました。会長としての力量がございましたので、結果として十分に活動したという評価を得られなかったことについては反省をしております。その中でも、上田市総合計画、都市計画マスタープランの策定等に携わりまして、真田町時代から続いてきました地域づくり委員会を継続してほしいとお願いするといったことの積み重ねが、わがまち魅力アップ応援事業等の施策に取り入れられたのではないかと考えています。図書館整備については、旧真田町時代に計画されて、合併協定の中にも掲載され、しかも建設基金があるというなか、いろんな角度から議論してまいりました。結果、協議会として一旦方向を決定したわけですが、市からの回答がなされてから、次の方向へ議論が現在進んでいるところです。ぜひ、素晴らしい図書館が整備されるようにと思っています。

おわりに、力量不足の会長にご協力いただいた皆さんに心から感謝申し上げます。これからも引き続き、地域自治センターの皆さんといっしょになって地域づくりに携わってまいりたいと思います。2年間ありがとうございました。

(副会長)

第1期の委員の任期が満了となりますので、センター長から一言ごあいさつがあります。

(センター長)

一言、御慰労と御礼を申し上げます。

只今は、貴重なご意見、ご提言をいただきました。2期目に活かしてまいりたいと思います。委員の皆様には、地域住民の大きな期待を担って、平成18年度、19年度とご苦労いただきました。その間、新生上田市の第1次総合計画の地域まちづくり方針の策定をはじめ、大きな地域課題でありました真田地域の図書館整備については、特に時間を割いていただいて慎重にご協議をいただきました。清水会長さん、佐藤副会長さんを

中心に、それぞれのお立場から貴重なご意見をたくさんいただきました。

地域協議会は、誕生したばかりの組織ということで、私ども市側も不慣れな中で進めてまいりましたが、真摯な姿勢で組織を切り盛りしていただきました会長さん、副会長さんには、心から感謝申し上げます。本日を持って委員を退かれる皆さんには、今後も真田地域の発展のためにご協力をお願いいたします。第2期の委員を改めてお引き受けいただく委員の皆さんには、引き続き大変ご苦勞をいただくわけですが、よろしく願い致します。

地域課題や住民要望に限りはございません。地域自治センターとしてもそれらを的確に把握しながら、一つひとつの課題解決と要望実現に向けて、地域協議会の皆さんと連携を図りながら地域経営、市政運営に努めてまいりたいと考えています。

最後に、委員の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げて、御礼のあいさつとさせていただきます。

(副会長)

これで、第1期最後の協議会を終了させていただきます。今日も貴重なご意見を多くいただきました。このご意見を第2期へつなげていただければと思います。

みなさん、大変お疲れ様でした。